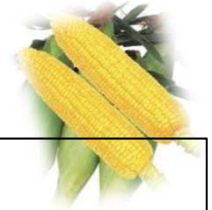
４．スイートコーンの生産拡大に向けた新作型の開発



背景・目的

◎ スイートコーンの出荷量は全国5位

	出荷量 (t)
北海道	105,100
千葉県	14,200
茨城県	9,450
群馬県	8,380
山梨県	7,620

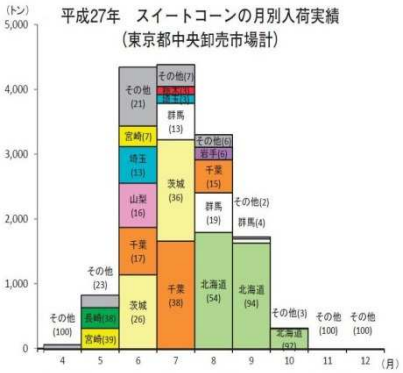
出展:H27年産野菜生産出荷統計

◎本県の作型は５、６月の促成栽培（平坦地）と８月後半の露地栽培（高冷地）が中心

◎近年、秋の行楽シーズンにも需要が大幅拡大!!

平坦地
促成栽培

◎山梨のスイートコーンは甘くておいしい!!
糖度16～17度(マスクメロンとほぼ同等)



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成27年東京都中央卸売市場年報）
注：（　）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（%）である。

◎しかし、秋の栽培は気温の低下による肥料吸収の悪化や日射量・時間の減少による光合成量が低下により、高品質なスイートコーンを生産することが難しい。

◎また、７月下旬から８月上旬の収穫は平坦地では高温よる品質低下、高冷地の露地栽培では収穫期が遅いため端境期がでる。

◎そこで、平坦地および高冷地での秋期収穫の安定生産技術と高冷地における移植栽培技術を確立し、連続生産を可能とすることで、山梨県産スイートコーンの、より一層の産地強化を図り、出荷量の拡大を目指す。

研究内容

◎ **新作型の開発：**

・秋の低温・短日照下での栽培技術の開発【10,11月収穫】

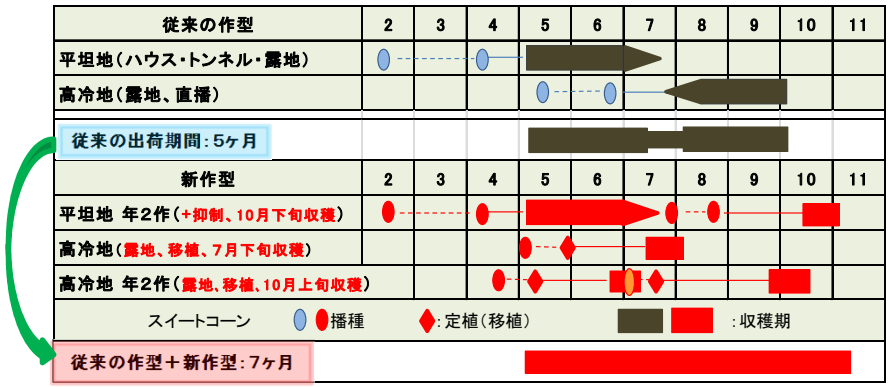
品種（早晩性）選定、異なる肥効肥料の組み合せ法、保温資材の利用、液肥の葉面散布　等の検討

・端境期（７月下旬～）の解消技術の確立

品種（早晩性）選定、播種・移植期、保温資材の検討

◎**品質向上技術の開発：**

品質・食味に与える環境要因（温度、光）の解明



期待される効果

スイートコーンは鮮度が命！

山梨に来れば穫りたての美味しいモロコシが食べられる。（地産訪消）

・作期拡大（5月～11月）

・供給の安定化

オリ・パラ訪日外国人

来県者数の増加

富士山とスイートコーン

出荷量の拡大（特に秋期）

・農家所得の向上
・販売力強化

山梨は桃・ブドウだけではない!!

全国３位も夢じゃない

富士山やさいのシンボルマーク

富士山やさい